

糖尿病足病変と合併症

東京都済生会中央病院 富田 益臣

糖尿病は全世界的な問題となっており、世界では約 6 秒に一人のペースで糖尿病が原因で患者さんが亡くなっている現状にあります。わが国でも、国民の 4 人に一人が糖尿病かその予備軍、という時代になっており、放置した場合には、約 10 年、糖尿病でない方と比べて寿命が短くなるとされています。亡くなる原因としては、従来は動脈硬化による心筋梗塞や脳卒中などの血管障害が多かったのですが、最近の治療の進歩により、血管障害による死亡よりも、悪性腫瘍（大腸がん、肝臓がん、膵臓がんなど）による死亡が増加しています。そのため、糖尿病の治療では、血管障害や悪性腫瘍を予防していくことが大切です。糖尿病は、その原因も様々で、原因によって、1 型、2 型、その他に分けられます。いずれの「型」も、血糖コントロールが不良の場合、細小血管合併症（細い血管の障害）である網膜症、腎症、神経障害が出現する頻度が増加するとともに、大血管障害（脳卒中、心筋梗塞、足の血管障害など）も増加し、生活の質が低下したり、元気でいられる期間が短くなるなど、長期的に大きな問題となります。ここで大切なことは、血糖以外に、脂肪分、血圧、体重といった、いわゆる「メタボ」関連についても気をつける事です。糖尿病の治療は、1 型糖尿病ではインスリン療法が、2 型糖尿病では食事、運動療法が基本となります。糖尿病の診断や治療、そして合併症についての話をさせていただければと思います。